

### 1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	国語	文学国語	-	必履修・必修・選択	2
科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2)深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、想像的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いやりや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)	『新 文学国語』(三省堂)	副教材 (出版社)	「セレクト漢字検定5級～2級 確認と演習 三訂新版」(桐原書店)		
留意点				開講 予定人数	40人

### 2 評価

#### (1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。
思考・判断・表現	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、想像的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いやりや考えを広げたり深めたりしようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

#### (2) 評価方法

評価方法	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査・小テスト		◎	◎	○
授業での活動		○	○	◎

### 3 履修上および学習上の注意

日頃から読書を通じて積極的に文学作品に触れるようにしましょう。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	①オリエンテーション （使用教材、評価方法説明）	1 書	
5 6	②文学の言葉を感じ取る ・二十億光年の孤独 （谷川俊太郎） ・詩を作る	4 読	② 【知】言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 【思】文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 【主】上記【知】【思】の取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
	③解釈の多様性を楽しむ ・予感（青山七恵）	9 読	③ 【知】人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 【思】文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。
	④単元テスト	1 書	【主】上記【知】【思】の取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
7			
8 9	⑤心情の表現に読みひたる ・デューク（江國香織）	12 読	⑤ 【知】情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思】作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 【主】上記【知】【思】の取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
	⑥作家のストラテジーを読み解く ・バースティ・ガール （村上春樹）	10 読	⑥ 【知】文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。 【思】語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。
	⑦前期期末考査	1 書	【主】上記【知】【思】の取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
10 11	⑧表現の意味を捉え直す ・こころ（夏目漱石）	16 読	⑧ 【知】文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 【思】作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。 【主】上記【知】【思】の取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
12 1			
2	⑨表現の意味を捉え直す ・評論文（奥泉光）	9 書	⑨ 【知】文学評論やそれに関する文章などについて理解を深めている。 【思】文学評論を読み、その有効性や可能性を理解し、自らも文学作品の解釈を深め、作品を論じることができている。
	⑩学年末考査	1 書	【主】上記【知】【思】の取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
3	⑪読み手を引き付ける表現の工夫をする ・短歌を詠む	6 書	⑪ 【知】文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。 【思】学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。 【主】上記【知】【思】の取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
		70	

## 1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	地理歴史	地理総合	-	必履修・必修・選択	2
科目の目標	<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。</p> <p>(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。「知識及び技能」</p> <p>(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。「思考力、判断力、表現力等」</p> <p>(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。「学びに向かう力、人間性等」</p>				
教科書 (出版社)	高校生の地理総合 (帝国書院) 標準高等地図 (帝国書院)	副教材 (出版社)	高校生の地理総合ノート (帝国書院)		
留意点				開講 予定人数	

## 2 評価の方法

### (1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。
思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察する。地理的な課題の解決に向けて構想する。考察、構想したことを効果的に説明する。
主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決する。

### (2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	◎	○
ワークシート	◎	○	◎
学習観察	○	◎	◎

## 3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1部第1章 地球儀と地図 地図と地理情報システム	4	【知】地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取ることを通じて、地図や地理情報システムの役割や有用性を理解している。 【思】各種の地図や地理情報システムの特徴、利用について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】目的に応じた地図や地理情報システムの利活用の方法について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
5	第1部第2章 現代世界の国家と領域 地図から見る国内や国家間の結びつき	5	【知】世界を構成する国々の結びつき方、交通、通信、人の移動の特徴を理解している。 【思】国家の領域、領土問題、交通、通信、人の移動の特徴について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】国家の領域、領土問題、交通、通信、人の移動の特徴について、地図を通して主体的に追究し、課題を見いだしている。
6 7 9 10	第2部第1章 生活文化の多様性 世界の地形と人々の生活 世界の気候と人々の生活 世界の産業と人々の生活 世界の宗教・民族・言語と人々の生活 多様な生活文化と地理的環境 事例1～10	14 16	【知】世界の多様な生活文化が、互いに影響を及ぼし合いながら形成されてきたことを理解している。 【思】世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
11 12	第2部第2章 複雑に絡み合う地球的課題 人口問題 食料問題 都市・居住問題 感染症・衛生問題 資源・エネルギー問題 地球環境問題	11 16	【知】地球的課題が生じている場所や要因、課題どうしが相互に関係し合っていることを理解している。 【思】地球的課題や、その解決のための取り組みについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】持続可能な開発を実現するために必要な取り組みや国際協力のあり方について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
1 2	第3部第1章 日本の自然環境 地震・津波や火山活動による災害と防災 気象災害と防災 自然災害への備え	12	【知】自然災害が生じる場所と要因、日本の自然災害の特徴、生活のなかにみられる防災・減災への取り組みを理解している。 【思】自然災害の特徴、防災・減災への取り組みについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】人々が生活していくうえで必要な防災・減災に向けた備えについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
3	第3部第2章 生活圏の調査と地域の展望	8	【知】生活圏の調査にあたって、仮説の立て方や調査結果の検証の方法、発表のしかたを理解している。 【思】事前調査の結果からどのような仮説が立てられるのかや、現地調査の結果をどのように分析・整理するのか、他の事例との比較からどのようなことがいえるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】生活圏の調査の結果を地域に還元し、よりよい社会を築いていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。

### 1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2年次	数学	数学 A	-	必履修・必修・選択	2
科目の目標	図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
教科書(出版社)	最新 数学 A (数研出版)	副教材(出版社)	書き込み式シリーズ [基本～標準] 教科書傍用パラレルノート 数学 A (数研出版)		
留意点	数学 I の復習をすること。		開講 予定人数	必修のため全員	

### 2 評価

#### (1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。
思考・判断・表現	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見い出し、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。

#### (2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・単元テスト 小テスト	◎	◎	
ワークシート 授業中の発言・発表	○	◎	○
授業への取組姿勢 週末課題 長期休業中の課題	○	○	◎

### 3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新課程 書き込み式シリーズ [基本～標準] 教科書傍用パラレルノート数学A」を、授業や家庭学習で活用する。</li> </ul>
---

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1章 場合の数と確率 第1節 順列・組合せ	16	【知】 数え上げの原則や集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則について理解することができる。 【思】 具体的な事象の考察を通して順列及び組合せの意味について理解し、それらの総数を求めることができる。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
5			
6	【前期中間考査】	1	
	第2節 確率	16	【知】 確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率を求めることができる。また、確率を事象の考察に活用することができる。 【思】 独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。また、それを事象の考察に活用することができる。条件付き確率条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
7			
8			
9	【前期期末考査】	1	
	第2章 図形の性質 第1節 三角形の性質	11	【知】 三角形の合同条件、相似条件などの図形の性質を基にして、三角形の性質など平面図形に関する基礎的な内容についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 【思】 図形に対する直観力・洞察力を養い、図形の性質を論理的に考察し表現する能力を育成する。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
10			
11	第2節 円の性質	12	【知】 図形の性質を基にして、円の性質など平面図形に関する基礎的な内容についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	【後期中間考査】	1	【思】 図形に対する直観力・洞察力を養い、図形の性質を論理的に考察し表現する能力を育成する。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
12			
	第3節 作図	4	【知】 基本的な作図方法を基にして、作図に関する基礎的な内容についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 【思】 図形に対する直観力・洞察力を養い、図形の性質を論理的に考察し表現する能力を育成する。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
1			
2	第4節 空間図形	7	【知】 図形の性質を基にして、空間図形に関する基礎的な内容についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	【後期期末考査】	1	【思】 図形に対する直観力・洞察力を養い、図形の性質を論理的に考察し表現する能力を育成する。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
3			

## 1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	保健体育	体育		必履修・必修・選択	2
科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。				
教科書(出版社)	現代高等保健体育(大修館書店)	副教材(出版社)			
留意点				開講 予定人数	

## 2 評価の方法

### (1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識及び技能	運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけているか。
思考力・判断力・表現力等	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につけているか。
学びに向かう力・人間性等	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を持つとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身につけているか。

### (2) 評価方法

観 点 評価方法	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
実技テスト・ゲーム	○	○	○
ワークシート	○	○	○
学習観察		○	○

## 3 履修上および学習上の注意

- ・評価の際には、2の(1)に記載の3観点を同等に取り扱うものとする。
- ・運動が苦手でも一生懸命取り組み、各種目の特性や自己の技能について探究し、発見した課題の解決に向けて考えること。
- ・運動が得意でも、仲間との体力や技能などの違いに配慮し、仲間全員が運動に親しめるよう、よりよい環境づくりに主体的に取り組むこと
- ・体調に応じて運動量を調整したり、仲間や相手の体力や技能の程度に配慮したり、用具や場の安全を確認するなどして、自他共に怪我のないように心掛けること。
- ・体育理論の授業においては保健の教科書を使用する。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点（抜粋）
4	オリエンテーション	1	「 <b>体づくり運動</b> 」 【知】体を動かす楽しさや心地よさを味わい、継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、
	1 「体づくり運動」	6	
	2 「体育理論」	3	「 <b>体育理論</b> 」 【知】運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解している 【思】課題を発見し、よりよい解決に向けて思考・判断するとともに、他者に伝えようとしている 【学】主体的に学習に取り組んでいる
5	3 「球技<ネット型>（バレーボール）」 「球技<ネット型>（ソフトテニス）」	9	「 <b>器械運動（マット運動：集団）</b> 」 【知】回転系や巧技系の基本的な技滑らかに安定して行うこと、発展技を行うこと、それらを構成し演技すること、ができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、よい演技を講えようとしている
6	4 「球技<ネット型>（ソフトテニス）」 「球技<ネット型>（バレーボール）」	9	「 <b>球技&lt;ゴール型&gt;</b> 」 【知】状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって、空間への侵入などから攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている
7			「 <b>球技&lt;ネット型&gt;</b> 」 【知】状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている
8	5 「球技<ネット型>（バドミントン）」 「球技<ネット型>サッカー +	9	「 <b>球技&lt;ネット型&gt;</b> 」 【知】状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている
9	「バレーボール型」ソフトボール」	5+4	「 <b>球技&lt;ネット型&gt;</b> 」 【知】状況に応じたボール操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている
10	6 「武道（柔道）」 「球技<ゴール型>（バスケットボール）」	9	「 <b>武道（柔道）</b> 」 【知】相手の動きの変化に応じて、得意技や連絡技を用いて相手を崩して投げたり、抑えたり、返したりするなどの攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、伝統的な行動の仕方を大切にしている
11	7 「領域選択」 ・「球技<ゴール型>（バスケットボール）」 ・「器械運動（マット運動：集団）」	9	「 <b>ダンス</b> 」 【知】ダンスの多様な楽しさや喜びを味わい、その文化的背景と表現の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、それぞれ特有の表現や踊りを身に付けて交流や発表をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、互いに共感している
12	・「ダンス」		「 <b>スキー</b> 」 【知】応用的・発展的な技能を習得する楽しさ・喜びを味わうとともに、斜面に応じた実践的なスキー操作をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、スキー場のルール・マナーを大切にしている
1	8 「体育理論」	3	
2	9 「スキー」	12	※1 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて取り組むとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる
3			※2 主体的に取り組んでいる、互いに助け合い高め合おうとしている、合意形成に貢献している、一人一人の違いに応じた動き・課題・挑戦を大切にしている、健康・安全を確保している

## 1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	保健体育	保健		必履修・必修・選択	1
科目の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。				
教科書 (出版社)	現代高等保健体育 (大修館書店)	副教材 (出版社)			
留意点				開講 予定人数	

## 2 評価の方法

### (1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けているか。
思考力・判断力・ 表現力等	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けているか。
学びに向かう力・ 人間性等	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身に付けているか。

### (2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
定期考査・小テスト	○	○	
ワークシート	○	○	○
学習観察		○	○

## 3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の際には、2の(1)に記載の3観点を同等に取り扱うものとする。</li> <li>・1単位科目のため欠課時数に留意すること。</li> <li>・授業で使用する教材は教科書のみであるため、教科担任から配布される教材の保管について留意すること。</li> <li>・教科書は1、2年次の保健のみならず、1～3年次体育の「体育理論」時にも使用するため、紛失しないように管理すること。</li> </ul>
--

#### 4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点（抜粋）
4	オリエンテーション	1	<b>「生涯の各段階における健康」</b> 【知】生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階における健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解している
	【生涯を通じる健康】		
	01「ライフステージと健康」	8	
	02「思春期と健康」		
5	03「性意識と性行動の選択」		【思】生涯を通じる健康における事象や情報などについて整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している
	04「妊娠・出産と健康」		
	05「避妊法と人工妊娠中絶」		【学】生涯の各段階の健康に関心を持ち、積極的に授業に参画している
			<b>「労働と健康」</b> 【知】労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をする必要があることを理解している
6	06「結婚生活と健康」	8	【思】働く人の健康の保持増進について、習得した知識を基に、生活の質の向上を図ることと関連付けて、課題解決の方法に応用している
	07「中高年期と健康」		
	08「働くことと健康」		【学】労働と健康の関係に関心を持ち、積極的に授業に参画している
7	09「労働災害と健康」		<b>「環境と健康」</b> 【知】人間の生活や産業活動は健康に影響を及ぼすことがあること、それを防ぐためには汚染の防止及び改善の対策をとる必要があること、環境衛生活動はある基準に基づき行われていること、を理解している
	10「健康的な職業生活」		【思】人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用している
8			【学】環境と健康の関係に関心を持ち、積極的に授業に参画している
	【前期期末考査】	1	
9	【健康を支える環境づくり】		
	01「大気汚染と健康」	6	【知】食品の安全性の確保は健康を保持増進する上で重要であること、食品衛生活動は食品の安全性を確保するための基準に基づき行われていること、を理解している
	02「水質汚濁、土壌汚染と健康」		
	03「環境と健康にかかわる対策」		【思】食品の安全性と食品衛生に関わる活動について、習得した知識を自他の日常生活に適用して、健康被害の防止と健康を保持増進するための計画を立てることができる
10	04「ごみの処理と上下水道の整備」		【学】食品と健康の関係に関心を持ち、積極的に授業に参画している
	05「食品の安全性」	3	<b>「保健医療制度及び地域の保健医療機関」</b> 【知】保健・医療制度や地域の保健所・保健センター・医療機関などを適切に活用する必要があること、疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であること、を理解している
11	06「食品衛生にかかわる活動」		【思】地域の保健・医療機関やスポーツ施設の活用の仕方について、関連した情報を整理し、生活の質の向上に向けた課題解決に応用している
	07「保健サービスとその活用」	4	【学】保健医療制度に関心を持ち、積極的に授業に参画している
	08「医療サービスとその活用」		
12	09「医薬品の制度とその活用」		<b>「様々な保健活動や社会的対策」</b> 【知】我が国や世界では、健康課題に対応して様々な保健活動や社会的対策などが行われていることを理解している
			【思】身近な地域や世界にある健康課題について、習得した知識を基に現在必要とされていることを整理し、自他の健康を保持増進するための環境づくりに主体的に参加する態度を身に付けている
1			【学】中高年期の健康について関心を持ち、積極的に授業に参画している
2	10「さまざまな保健活動や社会的対策」	3	<b>「健康に関する環境づくりと社会参加」</b> 【知】自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりに積極的に参加していくことが必要であること、そのためには適切な健康情報の活用が有効であること、を理解している
	11「健康に関する環境づくりと社会参加」		【思】ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりに積極的に参加していくために、適切な情報を選択・収集して、分析・評価し計画を立てることができる
	【後期期末考査】	1	【学】健康に関する環境づくりに関心を持ち、積極的に授業に参画している
3			

## 1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	芸術	美術 I		必履修・必修・選択	2
科目の目標	<p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)	美術 1 (光村図書)	副教材 (出版社)	なし		
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材費として 4,000円程度を徴収する予定である。</li> <li>・絵具等で汚れる可能性があるため、汚れてもよい上着を準備してください。</li> </ul>			開講 予定人数	21人

## 2 評価

### (1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。</li> <li>・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</li> </ul>

### (2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
制作物、小テスト	○	○	○
ワークシート	○	○	○
学習観察	○	○	○

## 3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション （1年の流れ、成績について 教室の使用ルール）</li> </ul>	2	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉛筆デッサン</li> </ul>	10	<p>【知】 形や陰影などの造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>【技】 意図に応じて用具の特性を生かすとともに、デッサンの表現方法を追求している。</p> <p>【発】 モチーフをよく観察し、形態や陰影などの表現方法について考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>【鑑】 デッサンの美しさを感じ取り、作者の意図と表現の工夫について考え、見方や感じ方を深めている。</p> <p>【主】主体的にデッサンの鑑賞活動や表現の創造的な諸活動に取り組もうとしている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色彩の基本</li> </ul>	4	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・油彩（静物）</li> </ul>	18	<p>【知】 油彩の造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。</p> <p>【技】 油彩の制作方法をふまえ、意図に応じて用具の特性を生かすとともに表現方法を追求している。</p> <p>【発】 モチーフをよく観察し、油彩の特徴を理解し、追求しながら構想している。</p> <p>【発】 主題に応じて油彩の表現方法について考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>【鑑】 油彩の美しさを感じ取り、作者の意図と表現の工夫について考え、見方や感じ方を深めている。</p> <p>【主】主体的に油彩の表現の多様さを感じ取り、鑑賞活動や表現の創造的な諸活動に取り組もうとしている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立体</li> </ul>	16	<p>【知】 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>【技】 制作方法を踏まえ、意図に応じて用具の特性を生かすとともに表現方法を追求している。</p> <p>【発】 主題に応じて表現方法について考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>【鑑】 美しさを感じ取り、作者の意図と制作工程における工夫を感じ取り、見方や感じ方を深めている。</p> <p>【主】 主体的に制作工程における工夫などについて考え、作品の鑑賞活動に取り組もうとしている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン</li> </ul>	18	<p>【知】 形や色、材料などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、デザインを全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。</p> <p>【技】 意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、表現を工夫し、目的や計画をもとに創造的にあらわしている。</p> <p>【発】 ものの形や色の特徴などから主題を生成し、形と色の組み合わせや構成などの効果について考え、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>【鑑】 デザインの目的や機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、形や色、構成の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p> <p>【主】 主体的にデザインの目的や機能との調和の取れた美しさなどを感じ取り、形や色、構成の工夫などについて考える鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年間まとめ</li> </ul>	2	

※単元の進捗状況により、単元の順序や内容変更の可能性があります。

## 1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2 学年	芸術（音楽）	音楽 I		必修・必修・選択	2
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽の幅広い活動を通して、生徒が個性を生かしながら思いや意図をもって表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。</li> <li>・音や音楽が醸し出すよさや美しさなどを感じ取り、そこに価値を見いだせる感性を養う。</li> <li>・音や音楽を知覚・感受して、思考・判断し表現する音楽活動の過程を通して、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。</li> <li>・音や音楽と生活や社会との関わりについて考え、音環境への関心を高め、音楽の知的財産権を尊重する態度の形成を図る。</li> <li>・中学校音楽科の学習を踏まえ、楽曲固有のよさや美しさなどを味わうだけでなく、文化的・歴史的背景など広い視野で音楽を捉えて、我が国及び諸外国の音楽文化への理解を深める。</li> </ul>				
教科書（出版社）	教育出版 音楽 I Tuitti+	副教材（出版社）	自作のプリント、楽譜など		
留意点				開講 予定人数	25人

## 2 評価の方法

### (1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	<p>【知】 様々な表現形態による歌唱表現の特徴について理解している。</p> <p>【技】 姿勢や呼吸などの身体の使い方の技能、他者との調和を意識して歌う技能を身に付け、歌唱で表している。【知】 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。【知】 曲想と楽器の音色や奏法との関わり、様々な表現形態による器楽表現の特徴について理解している。【技】 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能、他者との調和を意識して演奏する技能、表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身に付け、器楽で表している。</p>
思考・判断・表現	<p>音色、リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。音色、旋律、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌唱や器楽表現としてどのように表すかについて表現意図をもっている。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>親しみやすい J-POP の歌の二部合唱、音楽を幅広く様々な視点から捉えようとするに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。西洋音楽の源流を中世からルネッサンスの音楽の鑑賞と文化的・歴史的背景の学習で迎えるに関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>器楽アンサンブルや合唱の発表、独唱のテストに関心をもち、主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り</p>

### (2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査・小テスト	○		○
ワークシート	○	○	
学習観察	○	○	○

## 3 履修上および学習上の注意

※楽典、ギター、歌唱、器楽（リコーダーも含む）、鑑賞、など幅広く取り組みます。

※タブレット、紙ファイル A4 版、五線ノート 8 段～12 段を用意してください。

#### 4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	ガイダンス、校歌、カーロミオベン、 楽典（楽譜の基本的な知識学習）	6	【知】様々な表現形態による歌唱表現の特徴について理解している。【技】姿勢や呼吸などの身体の使い方の技能、他者との調和を意識して歌う技能を身に付け、歌唱で表している。音色、リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きを感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。
5	イタリア歌曲「カーロ・ミオ・ベン」 楽典基本問題集、確認テスト	8	【知】「カーロミオベン」の曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解している。 【技】曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。音色、リズム、速度、旋律、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。
6	楽典基本問題集 ギター基礎知識 確認発表	6	【知】曲想と楽器の音色や奏法との関わり、様々な表現形態による器楽表現の特徴について理解している。【技】曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能、他者との調和を意識して演奏する技能、表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身に付け、器楽で表している。
7	ギター音の出し方 確認発表	6	【思】音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。
8	・ギターメロディーを弾くためのテクニク・アルペジオ 確認発表	4	ギター奏法を身に付けることや音楽表現を創意工夫しながらアンサンブル活動をするに関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。
9	変奏曲の魅力を探ろう —バガニーニが残した名変奏曲—古の音楽に思いをはせよう —雅楽、悠久の響き—	4 4	【知】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。主題の変化や作品の特徴が音楽の構造とどのように関わっているかに関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
10	リコーダーアンサンブルを楽しもう	6	【知】曲想と楽器の音色や奏法との関わり、様々な表現形態による器楽表現の特徴について理解している。【技】曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能、他者との調和を意識して演奏する技能、表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身に付け、器楽で表している。【思】音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。【思】リコーダーの奏法を身に付けることや音楽表現を創意工夫しながらアンサンブル活動をするに関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。
11	オーケストラの魅力を探ろう —二つの旋律から広がる音楽—  吹奏楽の魅力を味わおう —鯨のモチーフが紡ぎ出す雄大なドラマ—	4 4	【知】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いているオーケストラの様々な楽器の音色や響き、またポレロのリズムに乗せた二つの旋律が展開されながらもたらず表現上の効果に関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。【思】吹奏楽の様々な楽器の音色や響き、また繰り返し現れるモチーフの変化と曲想や表現上の効果との関わりに関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
12	名曲プレゼンテーション —さまざまな時代のピアノ  曲を聴こう—物語と音楽との関わりに注目しよう —総合芸術における音楽の魅力—	3 3	【知】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠や音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。【思】冬季休業中に作成した紹介文を使ってミニ・コンサートを行い、時代や作曲者の違いによる音楽の特徴を感じ取りながら曲や演奏について根拠をもって批評することに関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

1	世界のさまざまな音楽の魅力Ⅰ —和楽器の音と世界の楽器の音—	2	【知】曲想と楽器の音色や奏法との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり、我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解している。【技】曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。音色、速度、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠、音楽表現の共通性や固有性について考えて聴き、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。【思】日本の楽器の奏法を学び、音色や奏法の特徴を感じ取ること、諸民族の楽器と日本の楽器との比較を通して音楽表現や音楽文化の固有性、共通性を考えることに関心をもち、主体的・協働的に器楽や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
2	世界のさまざまな音楽の魅力Ⅰ —和楽器の音と世界の楽器の音—	4	【知】曲想と楽器の音色や奏法との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり、我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解している。【技】曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。音色、速度、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠、音楽表現の共通性や固有性について考えて聴き、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。【思】日本の楽器の奏法を学び、音色や奏法の特徴を感じ取ること、諸民族の楽器と日本の楽器との比較を通して音楽表現や音楽文化の固有性、共通性を考えることに関心をもち、主体的・協働的に器楽や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
3	コンサートを開こう—音楽Ⅰのまとめとして—	4	【知】音楽Ⅰの1年間の学習における表現や鑑賞の「知識」に関する諸事項について理解している。【技】音楽Ⅰの1年間の学習における技能に関する諸事項を身に付け、歌唱や器楽、創作で表している。音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などを知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌唱や器楽、創作表現としてどのように表すかについて表現意図をもっている。【思】1年間の音楽学習のまとめとしてコンサートを企画実施することや、音楽Ⅰの1年間の学習を経て自分自身の音楽に対する考え方がどのように変容したかを考えることに関心をもち、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

## 1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	英語	英語コミュニケーションⅡ	-	必履修・ <b>必修</b> ・選択	2
科目の 目 標	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、以下の5つの領域において言語活動及びこれらをつなぎ付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。具体的な活動・領域は以下の通り。</p> <p>(1) 聞くこと                      ア 日常的及び社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することや概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(2) 読むこと                      ア 日常的及び社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することや概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(3) 話すこと [やり取り]                      ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。                      イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝え合うことができるようにする。</p> <p>(4) 話すこと [発表]                      ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。                      イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。</p> <p>(5) 書くこと                      ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。                      イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。</p>				
教科書 (出版社)	All Aboard! English Communication Ⅱ (東京書籍)	副教材 (出版社)	All Aboard Ⅱ WORKBOOK Ⅱ (東京書籍)		
留意点				開 講 予定人数	

## 2 評価

### (1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。</li> <li>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について聞くこと、読むことを通して、その内容を捉える技能を身に付けている。また、それらの話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して伝える技能を身に付けている。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取ったり、読み取ったりすることで、話の展開や話し手の意図、概要、要点、詳細を捉えている。また、それらの話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して詳しく伝えている。</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手、聞き手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</li> </ul>

### (2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
評価方法			
定期考査・小テスト リスニングテスト 等	◎	○	○
定期考査・ワークシート パフォーマンステスト 等	○	◎	◎
学習観察・提出物 授業や課題への取り組み 等	○	○	◎

## 3 履修上および学習上の注意

- ・言語活動に取り組む態度を持ち、異国の文化を学んでください。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	Pre-Lesson	1	(知) 関係代名詞 what を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 海外の行ってみたい所・そこでしてみたいことをまとめる。 (主) 海外の行ってみたい所について自分の意見をまとめる。
	Lesson 1	8	
5	Let' Listen 1	2	(知) ホテルにチェックインする時に使われる文の形・意味を理解している。 (思) 必要な情報を聞き取って、それを整理することができる。 (主) 必要な情報を聞き取って、それを整理しようとしている。
	Communication 1	2	
6	Lesson 2	8	(知) 比較表現を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 相手の意見を知り、自分の考えをまとめることができる。 (主) 相手の意見を知り、自分の考えをまとめようとしている。
	Lesson 2	8	
7	前期中間考査	1	(知) 感覚や感情を表す単語や表現を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 自分がどんな感情になるのかということについて、適確に書いて伝えている。 (主) 自分がどんな感情になるのかということについて、適確に書いて伝えようとしている。
	World Box 1	2	
8	Lesson 3	10	(知) 形式主語 it を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 身近な行事について、相手の意見を知り、自分の意見をまとめることができる。 (主) 身近な行事について、相手の意見を知り、自分の意見をまとめることをしようとしている。
	Lesson 3	10	
9	後期期末考査	1	(知) 間接疑問文を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 好きな物語について、相手の意見を知り、自分の意見をまとめることができる。 (主) 好きな物語について、相手の意見を知り、自分の意見をまとめることをしようとしている。
	文法のまとめ	2	
10	Lesson 4	10	(知) 間接疑問文を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 好きな物語について、相手の意見を知り、自分の意見をまとめることができる。 (主) 好きな物語について、相手の意見を知り、自分の意見をまとめることをしようとしている。
	Lesson 4	10	
11	後期中間考査	1	(知) to 不定詞を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 平日の生活でよく使われる語句や表現を用いて書き、適切な発表を行っている。 (主) 平日の生活でよく使われる語句や表現を用いて書き、適切な発表を行おうとしている。
	Let' s Listen 2	2	
12	Extra Target 1	3	(知) to 不定詞を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 平日の生活でよく使われる語句や表現を用いて書き、適切な発表を行っている。 (主) 平日の生活でよく使われる語句や表現を用いて書き、適切な発表を行おうとしている。
	World Box 2	3	
1	Lesson 5	10	(知) to 不定詞を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 平日の生活でよく使われる語句や表現を用いて書き、適切な発表を行っている。 (主) 平日の生活でよく使われる語句や表現を用いて書き、適切な発表を行おうとしている。
	Lesson 5	10	
2	後期期末考査	1	(知) to 不定詞を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 平日の生活でよく使われる語句や表現を用いて書き、適切な発表を行っている。 (主) 平日の生活でよく使われる語句や表現を用いて書き、適切な発表を行おうとしている。
	World Box 3	3	
3	Clothes	3	(知) to 不定詞を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 平日の生活でよく使われる語句や表現を用いて書き、適切な発表を行っている。 (主) 平日の生活でよく使われる語句や表現を用いて書き、適切な発表を行おうとしている。
	Clothes	3	

### 1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	家庭科	家庭基礎	-	必履修・必修・選択	2
科目の目標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す</p> <p>(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境について、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする</p> <p>(2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして生涯を見通して課題を解決する力を養う</p> <p>(3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う</p>				
教科書 (出版社)	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍 家基 701)	副教材 (出版社)			
留意点	実習費3,000円徴収します			開講 予定人数	

### 2 評価の方法

#### (1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。
思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組み、振り返りから改善して、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

#### (2) 評価方法

評価方法	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実技・単元テスト		○		
ワークシート			○	○
学習観察				○

### 3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	オリエンテーション 第1章 生涯を見通す	1 2	人の一生について様々な生き方があることを理解し生活課題に対応して意思決定の重要性を理解している	生涯を見通した自己の生活について考察し、表現できる	生涯の生活設計について考え、生活の充実向上を実践しようとしている
5	第2章 人生をつくる	5	青年期の課題、家族・家庭の機能と家族関係について理解している	家族の一員として役割を果たし、家庭を築くことの重要性について問題を見出して課題を解決する力を身に付けている	青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に取り組んでいる
6	第7章 衣生活をつくる	10	被服の機能と着装、被服材料、被服構成及び被服衛生について理解し、被服の計画・管理に必要な技能を身に付けている	被服の機能性や快適性、安全で健康や環境に配慮した被服の管理や目的に応じた着装について考察することができる	衣生活と健康について、課題の解決に取り組んでいる
7	第9章 経済生活を営む	9	家計の構造や生活の経済と社会の関わり、家計管理について理解している	生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度と関連付け、問題を見出して課題を解決する力を身に付けている	消費行動と意思決定について、課題の解決に取り組んでいる
8	第10章 持続可能な生活を営む	2	生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解している	持続可能な社会を目指して行動できるよう問題を見出して課題を解決する力を身に付けている	持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に取り組んでいる
9	第8章 住生活をつくる	5	住生活の特徴、機能について理解し、計画・管理の技能を身に付けている	住居の機能性や快適性について考察することができる	住生活と住環境について、課題の解決に取り組んでいる
10	第3章 子どもと共に育つ	9	幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子育て支援について理解し、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けることができる	子供を生み育てることの意義について考え、子供の健やかな発達のために問題を見出して課題を解決する力を身に付けている	子供の生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組んでいる
11	第6章 食生活をつくる ホームプロジェクト	17	栄養の特徴や食品の性質、健康や環境、安全に配慮した食生活について理解し、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている	食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について考察することができる	食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んでいる
12	第4章 超高齢社会を共に生きる	6	高齢期の心身の特徴、尊厳と自立生活の支援や介護について理解し、生活支援に関する基礎的な技能を身に付けている	高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について問題を見出して課題を解決する力を身に付けている	高齢期の生活と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んでいる
1	第5章 共に生き、共に支える	3	家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している	家庭や地域及び社会の一員として共に支え合って生活することの重要性について問題を見出して課題を解決する力を身に付けている	よりよい社会の構築に向けて共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んでいる
2	第11章 これからの生活を創造する	1	人の一生について様々な生き方があることを理解し生活課題に対応して意思決定の重要性を理解している	生涯を見通した自己の生活について考察し表現できる	生涯の生活設計について考え、生活の充実向上を実践しようとしている
3					

## 1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	商業	マーケティング	-	必履修・必修・選択	3
科目の目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、マーケティングに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) マーケティングに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)	マーケティング (実教出版)	副教材 (出版社)			
留意点				開講 予定人数	

## 2 評価の方法

### (1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	企業における事例など実際のマーケティングと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つマーケティングに関する知識と技術を身に付けている。
思考・判断・表現	唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、マーケティングをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、マーケティングに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、顧客についての理解、市場の動向、マーケティングに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。
主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らマーケティングについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、市場調査の実施と情報の分析、製品政策、価格政策、チャンネル政策、プロモーション政策の企画と実施などに責任をもって取り組んでいる。

### (2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	○	○	○
レポート		○	○
学習観察	○	○	○

## 3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1章 マーケティングの概要 1. マーケティングの歴史と発展 2. 現代の市場とマーケティング 3. マーケティング環境の分析 4. マーケティング・マネジメント	8	【知】現代市場におけるマーケティングの概要について理解している。 【思】マーケティングの意義と課題について、現代市場の特徴と関連付けて見いだしている。 【主】マーケティングについて自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえマーケティングに主体的かつ協働的に取り組んでいる。
5	第2章 消費者行動の理解 1. 消費者の心理と行動の関係 2. 購買意思決定過程 3. 消費者行動に影響を与える要因	8	【知】計画の立案に必要な消費者行動について理解している。 【思】購買意思決定までの過程について、消費者の心理と消費者行動に影響を与える要因を関連付けて見いだすことができる。 【主】消費者行動の理解について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
6	第3章 市場調査 1. 市場調査の概要 2. 市場調査の手順 【前期中間考査】 3. 仮説検証の手順 4. 実態調査の方法	6	【知】市場調査について企業における事例と関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思】市場調査に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて調査計画を立案して実施し、評価・改善するとともに、情報を科学的に分析することができる。
6	第4章 STP 1. セグメンテーション 2. ターゲティング 3. ポジショニング	10	【主】自ら学び、マーケティングに必要な情報の収集と分析に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 【知】STP分析について企業における事例と関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思】課題を発見し、科学的な根拠に基づいて対応策を考えている。 【主】分析について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
7	第5章 製品政策 1. 製品政策の概要 2. 新製品開発 3. 販売計画と生産計画 4. 製品政策の動向	16	【知】製品政策について企業における事例と関連付けて理解している。 【思】製品政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、製品政策を立案して実施し、評価・改善している。 【主】製品政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、製品政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
8	【前期期末考査】	1	【知】価格政策について企業における事例と関連付けて理解している。 【思】価格政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、価格政策を立案して実施し、評価・改善している。
9	第6章 価格政策 1. 価格政策の概要 2. 価格の設定方法 3. 価格政策の動向	8	【主】価格政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、価格政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
10	第7章 チャンネル政策 1. チャンネル政策の概要 2. チャンネルの選択と管理 3. チャンネル政策の動向	10	【知】チャンネル政策について企業の事例と関連付けて理解している。 【思】チャンネル政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、チャンネル政策を立案して実施し、評価・改善している。
11	【後期中間考査】	1	【主】チャンネル政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、チャンネル政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
12	第8章 プロモーション政策 1. プロモーション政策の概要 2. プロモーションの種類 3. プロモーション政策の動向	10	【知】プロモーション政策について企業における事例と関連付けて理解している。 【思】プロモーション政策に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、プロモーション政策を立案して実施し、評価・改善している。 【主】プロモーション政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、プロモーション政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
1	第9章 マーケティングのひろがり 1. さまざまなマーケティング戦略 2. サービス・マーケティング 3. 小売マーケティング 4. 観光地マーケティング	10	【知】・マーケティングの広がりについて企業における事例と関連付けて理解している。 【思】・マーケティングの広がりに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて対応策を考えている。 【主】・マーケティングの広がりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
2	【学年末考査】	1	
3	5. グローバル・マーケティング 6. ソーシャル・マーケティング	10	

## 1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2 学年	商業	財務会計Ⅰ		必履修・必修・選択	3
科目の目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力を養う。</p> <p>(3) 会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
教科書(出版社)	新財務会計Ⅰ(実教出版)	副教材(出版社)	反復式学習と検定 簿記問題集 全商2級 反復式学習と検定 会計問題集 全商1級 (実教出版)		
留意点	電卓を使用します。			開講 予定人数	

## 2 評価の方法

### (1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けたか。
思考・判断・表現	企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力を身に付けたか。
主体的に学習に取り組む態度	会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けたか。

### (2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	○	○	
ワークシート	○	○	○
学習観察		○	○

## 3 履修上および学習上の注意

全商 簿記実務検定2級～1級(6月と1月に実施)、全経簿記能力検定2級(5月、7月、11月、2月に実施)程度の内容を学習します。  
 学習状況に応じて、習熟度クラス編成を行います。

#### 4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	1年次の復習 クレジット売掛金と電子記録債権・電子記録債務 特殊な手形の取引	10	1年次の復習【知】【思】【主】 学習項目について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けか。
5	本支店間の取引 本支店会計合併財務諸表 株式会社の会計処理 株式会社の税金 【前期中間考査】	10	取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を身に付けたか。 自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けたか。
6	第1編 財務会計の基礎 第1章 企業と会計  第2章 企業会計制度と会計法規	14	第1編【知】【思】【主】 会計の意味や機能について正しく理解しているか。 会計公準がなぜ必要か説明できるか。 財務会計の役割について、自ら進んで実際の事例を調べようとしているか。
7	第2編 貸借対照表 第3章 貸借対照表のあらまし 第4章 資産の意味・分類・評価 第5章 流動資産 PART 1 当座資産	7	第2編 第3章～第4章【知】【思】【主】 貸借対照表の役割と区分・様式について、正しく理解しているか。 貸借対照表の区分はなぜ必要か説明できるか。 貸借対照表の区分について、自ら進んで学習する態度を示しているか。
9	【前期期末考査】 第6章 流動資産 PART 2 棚卸資産・その他の流動資産 第7章 固定資産 PART 1 有形固定資産	10	第5章～第19章【知】【思】【主】 資産・負債・資本の各学習項目について意味と処理方法について理解しているか。 資産・負債・資本の各学習項目について意味と処理方法を身に付けているか。
10	第8章 固定資産 PART 2 無形固定資産 第9章 固定資産 PART 3 投資その他の資産	12	資産・負債・資本の各学習項目について意味と処理方法について、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けているか。
11	第10章 負債の意味と分類 第11章 流動負債 第12章 固定負債 第13章 純資産の意味と分類 【後期中間考査】	10	第3編 第20章～第21章【知】【思】【主】 損益計算書の役割と区分・様式を正しく理解しているか。 損益計算書の区分はなぜ必要か、説明できるか。 損益計算書の区分について、自ら進んで学習する態度を示しているか。
12	第14章 資本金 第15章 資本剰余金 第16章 利益剰余金 第17章 自己株式 第18章 新株予約権 第19章 貸借対照表の作成	10	第22章～第26章【知】【思】【主】 費用・収益の各学習項目について意味と処理方法について理解しているか。 費用・収益の各学習項目について意味と処理方法を身に付けているか。 費用・収益の各学習項目について意味と処理方法について、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けているか。
1	第3編 損益計算書 第20章 損益計算書のあらまし 第21章 損益計算の意味と基準	6	
2	第22章 売上高 第23章 売上原価、販売費及び一般管理費 第24章 営業外費用・営業外収益 第25章 特別利益・特別損失 第26章 損益計算書の作成 【後期期末考査】	8	第27章【知】【思】【主】 株主資本等変動計算書の意味を理解し、その作成ができるか。 貸借対照表と損益計算書以外の財務諸表がなぜ必要か、説明できるか。 実際の貸借対照表と損益計算書以外の財務諸表を入手し、どのようなことが記載されているか、自ら進んで調べる態度を示しているか。
3	第27章 その他の財務諸表	3	

## 1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
1学年	商業	ソフトウェア活用	-	必履修・必修・選択	3
科目の目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>① 知識及び技能 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。</p> <p>② 思考、判断、表現 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p>				
教科書 (出版社)	・ソフトウェア活用 (実教出版)	副教材 (出版社)			
留意点				開講 予定人数	

## 2 評価の方法

### (1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	・定期考査 ・小テスト
思考・判断・表現	・定期考査 ・ワークシート ・発表
主体的に学習に取り組む態度	・授業への取り組み姿勢 (グループワーク、振り返り) ・ワークシート

### (2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	○	○	
ワークシート		○	○
学習観察			○

## 3 履修上および学習上の注意

- ・「ソフトウェア活用」は、1年で学んだ「情報処理」の発展的な科目です。さらに3年での様々な情報系選択科目を学ぶための科目です。
- ・アプリケーションソフトウェアの操作方法だけでなく、機能そのものの説明や利用例もあげられているため、応用力のあるリテラシーを体得することができます。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	1章 企業活動とソフトウェア活用 1節 ビジネスにおけるソフトウェアの活用 2節 ビジネスにおけるソフトウェアの進化	7	【知】ビジネスにおけるソフトウェアの活用について理解しているか。 【思】ビジネスにおけるソフトウェアの活用と目的を認識し、企業活動と関連付けて表現できるか。 【主】ビジネスにおけるソフトウェアの活用と進化について、主体的かつ協働的に取り組もうとしているか。
5	2章 情報通信ネットワークの活用 1節 情報通信ネットワークの導入と運用 2節 情報資産の保護 【前期中間考査】	9	【知】ネットワークの構成に必要なハードウェア、ソフトウェアについて、実務での活用方法を知識として身につけているか。 【思】ネットワーク構築に必要なハードウェア、ソフトウェアの特性を理解し、データ保護やセキュリティ管理の重要性を表現できるか。 【主】ネットワーク構築、データの保護やセキュリティ管理について主体的かつ協働的に取り組もうとしているか。
6	3章 表計算ソフトウェアの活用 1節 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析	12	【知】ビジネスに関する情報の集計と分析について実務に即して理解し、手続きの自動化についての基本的な考え方を理解しているか。 【思】財務情報や販売情報の分析結果から、企業の経営状態や販売傾向を理解でき、表計算ソフトウェアを活用して概略を表現できるか。 【主】財務情報や販売情報に関心を持ち、表計算ソフトウェアの機能を利用した分析実習に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
7	2節 表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ	9	
8	3節 手続きの自動化	6	
9	【前期期末考査】	1	
10	4章 データベースソフトウェアの活用 1節 ビジネスとデータベース 2節 データベースの作成と操作 3節 手続きの自動化 4節 データベースの構造	11	【知】データベースの役割やリレーションシップを理解し、テーブル・クエリなどの操作方法と、SQLの基本文法を理解しているか。 【思】業務の特性に合わせた、データベースの効果的な活用方法を判断でき、既存のマクロ機能やSQLの処理内容を理解できているか。 【主】ビジネスにおけるデータベースの活用に関心を持ち、知識・技術の理解に、主体的かつ協働的に取り組もうとしているか。
11	【後期中間考査】 5節 SQLの操作	1	【知】グループウェア・販売管理・給与管理のソフトウェアについて、活用方法の違いを理解し、基本的な知識・技術を身につけているか。
12	5章 業務処理用ソフトウェアの活用 1節 グループウェアの活用	10	【思】ビジネスにおける情報の一元管理の意味を理解し、業務処理ソフトウェアを活用して、業務の効率化に役立てることができるか。
1	2節 販売管理ソフトウェアの活用 3節 給与計算ソフトウェアの活用	5	【主】業務処理ソフトウェアの効率的な活用をするために、主体的かつ協働的に取り組もうとしているか。
2	6章 情報システムの開発 1節 システム開発の基礎 2節 アルゴリズムの基礎 【後期期末考査】	6	【知】システム開発における代表的な開発モデルと開発手法について、基礎的な知識を習得し、アルゴリズムの基本を身につけているか。 【思】システムの開発の手順や開発モデルの内容を適切に理解し、基本的な処理をアルゴリズムなどに表現することができるか。
3	3節 情報システムの開発演習	5	【主】システムの開発に興味を持ち、その設計や作成の方法を積極的に学ぼうとしているか。ソフトウェアの特色を生かした実習に積極的に取り組み主体的かつ協働的に取り組もうとしているか。

### 1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2	商業	商品開発と流通	選択	必履修・必修・ <b>選択</b>	2
科目の目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、商品開発と流通に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 商品開発と流通に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、商品開発と流通に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
教科書(出版社)	商品開発と流通(実教出版)	副教材(出版社)			
留意点				開講 予定人数	

### 2 評価の方法

#### (1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解し、商品の企画からプロモーションまでの様々な場面で役に立つ商品開発に関する知識と、流通の立場から捉えた取引対象としての商品に関する知識を身に付けている。
思考・判断・表現	商品開発と流通をはじめとした様々な知識や情報などを活用し、商品開発と流通の動向や課題を発見するとともに、ビジネスに関わる様々な立場に立って、妥当性と課題などの視点から、科学的な根拠に基づいて商品開発と流通に関する計画を立案したり、提案したりしている。
主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら商品開発と流通について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、商品開発と流通に関する学習活動に責任をもって取り組もうとしている。

#### (2) 評価方法

観点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	◎	○
学習観察	○	○	◎

### 3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	Introduction 1 なぜ商品開発と流通は行われるのか？ 2 なぜ『商品開発と流通』を学ぶのか？ 1章 商品開発と流通の概要	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品開発と流通が一連のものであることを理解している。</li> <li>『商品開発と流通』の学習内容について理解している。</li> <li>現代市場における商品開発と流通の概要について理解している。</li> <li>現代市場の特徴と関連付けて、商品開発の意義と課題を見出すことができる。</li> <li>商品開発の手順とともに、学習計画が立てられている。</li> </ul>
5	1 私たちの生活と商品 2 商品開発の意義と手順 3 商品と流通との関わり	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品と流通との関わりについて、具体的な事例と関連付けながら、思考できている。</li> <li>経済や消費者の動向について自ら学び、主体的かつ協働的に学習に取り組んでいる。</li> </ul>
6	2章 商品の企画 1 環境分析と意思決定の準備 2 市場調査	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業の事例を取り上げられている。</li> <li>マクロ分析、ミクロ分析の技術が身に付いている。</li> <li>商品ライフサイクルおよびSTPについて理解している。</li> <li>市場調査から商品の企画に関する課題を発見する。</li> </ul>
7	3 商品コンセプトの策定 4 商品企画の提案	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブレインストーミングなどの技法を用いて、アイデアの創出が行えている。</li> </ul>
8		3	<ul style="list-style-type: none"> <li>アイデア創出に当たり、主体的かつ協働的な取り組みを行っている。</li> </ul>
9	3章 事業計画の立案 1 事業計画の概要 2 価格計画	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業計画の目的に合わせて、一連の流れを理解している。</li> <li>価格の設定方法を理解している。</li> <li>企業の事例を取り上げられている。</li> <li>価格政策ごとに戦略に違いがあることに気付いている。</li> </ul>
10	3 流通計画 4 プロモーション計画 5 事業計画書の作成	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>流通チャネルの種類と特徴から、流通計画について理解している。</li> </ul>
11	4章 商品の開発 1 商品仕様と詳細設計 2 プロトタイプ 3 商品とデザイン	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業におけるプロモーション活動の事例を取り上げ、それぞれの特徴を理解している。</li> <li>科学的な根拠に基づいて事業の展開に必要な項目をまとめ、事業計画書を立案できている。</li> <li>ブランドの機能、構成要素等を理解している。</li> <li>知的財産権の内容や、手続き方法の違いを理解している。</li> </ul>
12	4 ブランド 5 知的財産権の登録	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>知的財産権の侵害について、科学的な根拠に基づいて、具体的な事例について分析、考察ができている。</li> </ul>
1	5章 商品の販売 1 販売員活動 2 セールスプロモーション	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>販売員活動におけるプロセス、役割等を理解している。</li> <li>企業の事例を取り上げ、顧客の購買心理に基づいたセールスプロモーションが行われていることに気付いている。</li> <li>流通とプロモーションについて、自ら学び、経済や消費者の動向を踏まえて、主体的かつ協働的に取り組んでいる。</li> </ul>
2		5	<ul style="list-style-type: none"> <li>科学的な根拠に基づいて、実習計画を立案し、実施後に課題を見つけ、評価・改善している。</li> </ul>
3	6章 商品と流通に関わる新たな展開 1 商品開発の新たな展開 2 流通の新たな展開 3 感覚を活かした商品開発・流通	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業の事例を取り上げて、デザイン思考の商品開発について理解できている。</li> <li>情報システムの変化が効果的・効率的な流通に結びついていることを理解している。</li> <li>企業の事例を取り上げて考察できている。</li> </ul>

### 1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	商業	観光ビジネス	選択	必履修・必修・ <b>選択</b>	2
科目の目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、観光ビジネスの展開に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 観光ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観光ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、観光ビジネスに主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。</p>				
教科書(出版社)	実教出版 観光ビジネス	副教材(出版社)			
留意点				開講 予定人数	

### 2 評価の方法

#### (1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	国内における事例など実際の観光ビジネスと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ観光に関する知識と技術を身に付ける。
思考・判断・表現	観光ビジネスをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、観光に関する課題を発見するとともに、観光が社会に及ぼす影響を踏まえ、観光に関する消費行動についての理解、市場の動向、観光に関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考える力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら観光について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、市場調査の実施と情報の分析、事業所等と協力し、観光コンテンツの企画と実施などに責任をもって取り組む態度を養う。

#### (2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	○	○	○
レポート・発表		○	○
学習観察	○	○	○

### 3 履修上および学習上の注意

<p>・「観光ビジネス」は、地域振興に直結するので、事例も多く、社会において活用できる力を身につけるための知識と思考を育てます。</p>
--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1章 観光とビジネス 1 観光の歴史と発展 2 松下幸之助と観光 3 観光ビジネスの特徴 4. 観光ビジネスの動向	10	【知】観光とビジネスの関係性に関する概要について理解している。 【思】観光の意義と課題について、現代観光市場の特徴と関連付けて見いだしている。 【主】観光について自ら学び、地域や消費者の動向などを踏まえ観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組んでいる。
5	第2章 観光資源と観光政策 1. 留萌市の観光資源 2. 北海道の観光資源 3. 国内の観光資源 【前期中間考査】	5	【知】地域等の観光資源の現状とその活用について理解している。 【思】観光資源の再認識と資源化までの政策過程について、地域の活性化へ影響を与える要因を関連付けて見いだすことができる。 【主】観光資源の活用について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
6	4. 日本の文化 5. 観光資源の保護と保全 6. 観光政策の動向	8	
7	第3章 観光ビジネスとマーケティング 1. 観光ビジネスの主体 2. 観光ビジネスにおけるマーケティングの特徴 3. 顧客の理解 4. 顧客サービス 【前期末考査】	13	【知】観光ビジネスに対するマーケティング活動について企業や自治体における事例と関連付けて理解する。 【思】観光ビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、評価・改善するとともに、改善計画を科学的に検討することができる。 【主】自ら学び、観光ビジネスに必要な情報の収集と分析に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
8	【前期末考査】	1	
9	*見学旅行地における観光ビジネス	7	【知】見学旅行の行程から、観光資源を調査し、見学旅行の目的を観光ビジネスと関連付けて理解する。 【思】訪問地に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、評価・改善するとともに、改善計画を科学的に検討することができる。 【主】自ら学び、訪問地での情報の収集と分析に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
10	第4章 観光ビジネスの展開と効果	7	
11	1. 観光振興とまちづくりの関係 2. 観光に関する地域の課題 【後期中間考査】	1	【知】観光ビジネスを活用した地域活性化について企業や自治体における事例と関連付けて理解する。 【思】まちづくりの課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、歓呼の視点から対応策を考えている。 【主】地域活性化について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
12	3 地域の活性化	3	
1	第5章 目的地の創造	14	【知】目的地の創造について企業における事例と関連付けて理解している。 【思】目的地の創造に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、政策を立案して実施し、評価・改善している。 【主】目的地の創造製品政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、製品政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 【知】価格政策について企業における事例と関連付けて理解している。
2	1. 目的地の創造に関する事例研究 2. 新しい日本文化 ・エンターテインメントビジネス ・海外でのアニメ評価		
3			

## 1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	商業	原価計算	選択	必履修・必修・ <b>選択</b>	3
科目の目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、原価情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)原価計算，原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2)原価計算，原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見いだし，ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。</p> <p>(3)企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び，適切な原価情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。商業の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>				
教科書 (出版社)	原価計算 (実教出版)	副教材 (出版社)			
留意点				開講 予定人数	

## 2 評価の方法

### (1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	原価計算、原価計算に関する会計処理および原価情報の活用に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身についている。
思考・判断・表現	原価計算をはじめとしたさまざまな知識、技術などを活用し、原価計算、原価計算に関する会計処理および原価情報の活用の方法の妥当性と実務に適用することにもなう課題を見いだすとともに、原価情報が社会に及ぼす影響を踏まえ、原価計算に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠にもとづいて工夫してよりよく課題に対応する力が身についている。
主体的に学習に取り組む態度	適切な原価管理をおこなう力の向上を目指してみずから原価計算について学ぶ態度および組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、適切な原価の費目別計算、部門別計算、製品別計算などによる原価情報の提供と効果的な活用に責任をもって取り組む態度が身についている。

### (2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	○	○	○
レポート		○	○
学習観察	○	○	○

## 3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「原価計算」は2年3年で学ぶ「財務会計」などの簿記会計科目を発展的に学ぶため、原価計算の内容を学びます。</li> <li>・原価計算に関する法規と基準の改正などに随時対応しながら、実務に即した例題を取り入れた学習活動及び取引の記録と財務諸表の作成の方法について考察や討論を行う学習活動を通して、適正な計算方法と製造原価報告書の作成ができるようにしていきます。</li> </ul>
---

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1章 原価と原価計算	2	【知】製造業の特徴や原価の基本的な内容について理解している。 【思】工業簿記と原価計算の関係について理解し、適用される場面を思考・判断することができる。
	第2章 原価計算のあらまし	4	【主】製造業における原価計算と工業簿記に興味を示し、自ら学習しようとする態度が見られる。
5	第3章 工業簿記—製造業における簿記—	3	【知】原価要素の性格とその分類について理解している。・原価要素を集計する過程で原価計算表の役割を理解している。
	第4章 材料費の計算	9	【思】原価計算の目的について理解し、どのような場面で活用されるかについて、思考・判断し、それを表現する仕方を身に付けている。 【主】本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
6	【前期中間考査】	2	【知】工業簿記における勘定記入の特徴を理解し、一連の流れを記帳することができる。
	第5章 労務費の計算	9	【思】製造直接費と製造間接費の区別の必要性や、製造活動に関わる勘定の特性について考え、表現することができる。 【主】本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
7	第6章 経費の計算	4	【知】材料費の分類とその内容を理解している。材料の仕入、消費に関わる処理を理解、適切に記帳することができる。
	第7章 個別原価計算	16	【思】予定価格により消費高を計算することの意義について思考し、予定価格を用いた二通りの記帳ができる。 【主】本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
8			
9	【前期期末考査】	2	
	第8章 部門別個別原価計算	7	【知】労務費の分類とその内容を理解している。労務費の計算方法と記帳方法を理解し、適切に記帳することができる。 【思】賃金支払高の計算期間と賃金消費高の計算期間のずれについて理解し、賃金勘定と関連付けて表現することができる。
10	第9章 総合原価計算	12	【主】本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 【知】経費の分類とその内容を理解している。経費の消費高を計算できる。
	第10章 工程別総合原価計算	7	【思】経費の消費高の計算において、なぜ3分類するのか、合理的な記帳法はどのようなものかについて考え、適切に判断・表現して学習を進めている。
11	第11章 総合原価計算における減損・仕損じなどの処理	3	【主】本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
	第12章 製品の完成と販売	3	【知】原価元帳と仕掛品勘定の関係を理解できている。個別原価計算のしくみを理解し、原価計算表に記入ができる。
	第13章 決算と本社・工場間の取引	5	【思】製造間接費の配賦方法について理解し、適切に配賦を行える。実際配賦の欠点を説明でき、予定配賦による記帳を行える。 【主】個別原価計算の記帳方法について関心を持ち、意欲的に記帳に取り組むことができる。
12			
1	第14章 標準原価計算（その1）	5	【知】部門別個別原価計算の必要性が理解できている。部門費配分表、部門費振替表を作成でき、それぞれにもとづく記帳ができる。
2	第15章 標準原価計算（その2）	4	【思】部門別個別原価計算の必要性が理解できている。部門費配分表、部門費振替表を作成でき、それぞれにもとづく記帳ができる。
	第16章 直接原価計算（その1）	4	【主】本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
3	第17章 直接原価計算（その2）	4	

		<p>【知】単純総合原価計算が用いられる製造業の特徴と手続きの流れが理解できている。平均法と先入先出法による月末仕掛品原価の計算ができる。等級別総合原価計算が用いられる製造業の特徴と等級別総合原価計算のしくみを理解し、等級別総合原価計算表を作成できる。組別総合原価計算が用いられる製造業の特徴と組別総合原価計算のしくみを理解し、組別総合原価計算表を作成できる。</p> <p>【思】生産形態の違いから、原価計算の方法が異なることを理解し、個別原価計算と総合原価計算の違いを説明することができる。</p> <p>【主】本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。</p> <p>【知】工程別総合原価計算の意味と目的、手続きについて理解できている。工程別総合原価計算の手続きにもとづき記帳ができる。</p> <p>【思】なぜ、工程別計算を行うのかについて考え、適切に判断して学習を進めている。</p> <p>【主】本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。</p> <p>【知】減損の意味と、それが発生した場合の処理方法について理解し、月末仕掛品原価の計算ができる。副産物、作業くず、仕損品の意味と、それぞれが発生した場合の記帳方法について理解している。</p> <p>【思】総合原価計算における減損・仕損じなどはどのように処理するのかについて考え、適切に判断して学習を進めている。</p> <p>【主】本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。</p> <p>【知】製品の完成と販売に伴う手続きと記帳方法が理解できている。販売費及び一般管理費の記帳方法が理解できている。</p> <p>【思】財務諸表の特色を理解し、製造原価報告書の作成ができる。</p> <p>【主】本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。</p> <p>【知】工場会計の独立を理解し、記帳ができる。</p> <p>【思】製造業の決算の特徴を商品売買業の決算と比較して考えたり、本社工場間の取引の記帳を本支店間の取引と比較して考えている。</p> <p>【主】本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。</p> <p>【知】標準原価計算の意義と特色、手続きについて理解できている。標準原価計算により完成品原価や月末仕掛品原価が計算できる。</p> <p>【思】なぜ、原価標準を設定するのかについて理解している。</p> <p>【主】原価管理について関心を持ち、意欲的に取り組む姿勢が見られたか。</p> <p>【知】パーシャルプラン、シングルプランによる記帳ができている。</p> <p>【思】原価差異の算出ができ、その結果から差異の原因について適切に分析することができる。</p> <p>【主】本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。</p> <p>【知】直接原価計算の意義と特色、手続きについて理解できている。</p> <p>【思】直接原価計算による損益計算書の形式を理解し、作成できる。</p> <p>【主】利益計算について関心を持ち、意欲的に取り組む姿勢がみられる。</p> <p>【知】CVP分析や損益分岐図表により、売上高・原価・利益の関係が理解できている。損益分岐点を求めることができる。高低点法による原価予測ができる。</p> <p>【思】損益分岐点比率と安全余裕率の意味を理解し、求めることができる。</p> <p>【主】本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。</p>
--	--	---

## 1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2 学年	商業	プログラミング		必履修・必修・ <b>選択</b>	3
科目の 目 標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) プログラムと情報システムの開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う</p>				
教科書 (出版社)	プログラミング (東京法令出版)	副教材 (出版社)	情報処理検定模擬問題集 2級プログラミング編 (東京法令出版)		
留意点	情報処理実習室で授業を実施します。			開 講 予定人数	

## 2 評価の方法

### (1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	プログラムと情報システムの開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けたか。
思考・判断・表現	企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けたか。
主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けたか。

### (2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	○	○	
ワークシート	○	○	○
学習観察		○	○

## 3 履修上および学習上の注意

全商 情報処理検定試験 プログラミング部門 2 級程度の内容を学習します。(9 月と 1 月に実施)
--

#### 4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1章「情報システムの重要性」 第1節「情報システムとプログラム」 第2節「情報システムの活用」	9	【知】【思】【主】 情報システムやプログラムの概要について理解している。 身の回りにはどのような情報システムがあるか、考えようとしている。 情報システムの概要を学習することについて、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
5	第2章 「ハードウェアとソフトウェア」 第1節 「ハードウェアの機能と動作」 第2節 「ソフトウェアの体系と役割」	9	【知】【思】【主】 コンピュータの構成要素について、五大機能・五大装置などと関連させて理解している。 コンピュータでさまざまな情報を処理し、表現する方法について考えようとしている。 コンピュータの構成要素や情報表現、命令実行の仕組みに関する学習に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
6	【前期中間考査】 第3章「アルゴリズムの表現技法とデータ構造」 第1節「アルゴリズムの表現技法」 第2節「データ構造」	12	【知】【思】【主】 アルゴリズムとは何か、理解している。流れ図によってアルゴリズムを表す方法について理解している。 何かを処理する場合におけるアルゴリズムの重要性について考えようとしている。 アルゴリズムを表現する方法に関する学習に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
7	第4章 「手続き型言語のプログラミング」 第1節「プログラミングの手順」	9	【知】【思】【主】 表計算ソフトウェアを用いてプログラミングをするための基本的な技術・操作方法を習得している。ユーザフォームとは何か、理解している。
8	第2節「データの入出力と演算」	6	プロシージャについて理解している。イベントに関連して発生するイベントプロシージャについて理解している。
9	第3節「条件判定と繰り返し処理」 【前期期末考査】	12	学習した知識や技術を用いて、課題を解決するためのプログラムを作成する方法を考えようとしている。
10	第4節「配列の利用」	12	表計算ソフトウェアでプログラミングを行う基本的な方法に関する学習に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
11		9	
12	【後期中間考査】 第5章「プログラムと情報システムの開発」 第1節 「情報システム開発の手順と手法」 第2節「プロジェクト管理」 第3節 「情報システムの評価と改善」 第4節 「情報システム開発と法規等」	9	【知】【思】【主】 情報システム開発の全体像について理解している。情報システムの開発手法について理解している。 開発手法ごとの長所や短所を踏まえ、どのような場合にどのような開発手法を用いるとよいか、考えようとしている。 情報システム開発の手法に関する学習に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
1	第6章「手続き型言語を用いた情報システムの開発」 第1節 「情報システムの開発演習①」	6	【知】【思】【主】 これまでに学習したシステム開発やプログラミングに関する知識や技術を、実用的に使用できる形で理解・習得している。 これまでに学習したシステム開発やプログラミングに関する知識や技術を活用し、求められている機能を備えたシステムを開発する方法を考えようとしている。 情報システムの開発に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
2	第2節 「情報システムの開発演習②」 【後期期末考査】	6	
3		6	